

# 「世界中の日本」 今後を考える契機に

## 佐竹 弘靖ゼミ アルメニア探訪記

「シルクロードを歩く」

佐竹弘靖ゼミ(教養ゼミ「シルクロードを歩く」)の学生6人は、日本ではあまり知られていないコーカサスの国アルメニアとグルジアを2月18日から26日まで訪ねた。アルメニアの歴史、風土、生活などを体験し、世界を見る目を養い、現地で学ぶ同年代の大学生とお互いの国や大学を紹介するプレゼンテーションなど実演を交えた交流をもつことで、価値観や生活習慣の違いを学んだ。学生たちにとって、世界の中の日本とはどういう国なのか、そして今後どうあるべきなのかを考えるよい機会となった。

### 寄稿 加藤 奈那子(商4)

未知の国・アルメニアを訪ねてまず感じたことは、広大な大自然の美しさや、ゲガルド修道院に代表される古代建築技術の素晴らしさです。301年に世界で初めてキリスト教を国教として承認した国の歴史の重みを感じました。

佐竹ゼミは、「シルクロードを歩く」をテーマに、日本アルメニアにゆかりのある人物などの銅像やオブジェが立ち並び、芸術性にあふれていました。また、アルメニア人とメニアと日本の国交樹立20周年記念イベントの「前哨戦」として、同大



### 国立エレバン言語大と交流

## 「言葉のカベ」を越えて 自国の文化を紹介した

また、現地で日本語教師をされている長谷川有彦先生とメールでコンタクトを取りながら、交流会へ向けて準備を進めました。2日間かけて開催されたエレバン国立言語大生との交流会には、アルメニアには踊りの文化があり、当初は披露するだけの予定だったソラン節を現地の人々と一緒に踊り、アルメニアのダンスを教えることができました。そして、この旅を支えたことが特に印象的でした。「言葉のカベ」を越え、お互いの文化を紹介し合いました。



▲ エレバン国立言語大の学生たちと。前列中央が加藤さん



▲ セヴァン湖で

### アルメニア・グルジア旅行日程

- 2月18日 成田発
- 19日 東ローマ帝国にゆかりの深いガルニ神殿、スヴァルトノツ見学
- 20日 エレバン国立言語大学訪問(プレゼンテーション・レセプションパーティー・同大学生の家にホームステイ)
- 21日 同(日本の伝統的遊び=コマ回し、折り紙、たこ焼きなどの実演・エレバン市内観光)
- 22日 アルメニア最大の湖セヴァン湖見学後、陸路で国境を越えグルジアへ(トビリシ滞在)
- 23日 シナゴーク(ユダヤ教会)、スベエティ・ツホヴェリ大聖堂など観光
- 24日 アルメニアに戻り、エレバン滞在・市内観光
- 25日 アルメニア教会の総本山 エチミアジンや博物館見学
- 26日 成田着

また、学生たちに街を案内してもらったことも思い出深く、友だちとしての出会いがありました。この受け入れてもらえたのを感じました。最終、覚えなさんと再会できること

## 「専大生もぜひ体験して」

専大卒業生の永島敏行さん コメや手造り食品、海産物などを求める人々にぎわった。「このトマト、フルーツみたいに甘いね」「こちらのレモンは皮も食べられるよ」：永島さんも気軽に会話の土、水、光などあらゆるものにはぐくまれ、生かされている。全国各地から農家など二十数輪に加わっていた。永島さんが実行委員長のと

## 永島敏行さんの「青空市場」



「青空市場」は、食と農を通じて作り手と買手と直接交流する場を提供し、食文化の創造や情報交換を目的に東京、大阪の各地区で2004年から70回ほど開催している。「生産者と消費者の声に耳を傾け、作ることを楽しむ」1993年、専大時代に所属した準硬式野球部の仲間が誘われ、映画祭のため秋田県横手市十文字町を訪れたこ

## 地ビールに「スピカ」と命名

### 商・前川ゼミ 地域振興に一役

商学部・前川明彦ゼミにある地ビール専門店の名産づくりで地域振興を目標とする多摩区に属する新製品ネーミングとビン

「スピカ」は、ホップが効いたコクのあるビール。3月20日、川崎地下街アゼリア(川崎区)で開かれた同科学館のプレイベントで販売され、前川ゼミ生10人が協力した。前川ゼミは、同科学館をイメージする和菓子の新製品開発も行っている。川崎市菓子協議会に加盟する多摩区などの10店舗と協力、今夏の完成を目指す。



▲ 「スピカ」を手前に前川ゼミの皆さん